

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18523

研究課題名（和文）原発事故後の福島における環境の知の獲得過程を追跡する分野横断的な人類学的研究

研究課題名（英文）A multisectoral anthropological study of how people acquire knowledge of the environment after the nuclear accident in Fukushima

研究代表者

内山田 康（Uchiyamada, Yasushi）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：50344841

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：福島第一原発事故の事実に関する知について、特に放射能汚染について、異なるアクターたちが何を媒介にして何を知っているのか福島から調査を始め、人間と非人間のアクターたちを追いながら、福島第一原発の使用済み燃料を処理してプルトニウムを精製し、MOX燃料を作り、高濃度の放射性廃棄物を処理するフランスと英国の二つの再処理工場とその周辺で調査を行い、仏英の再処理工場の周囲で住民に起きていることと福島の浜通りで起きていることが構造的に類似していることが認められた。グローバルな原子力の産業システムの上部では数少ない同じアクターが技術と知と人材を交流させながら発展させ、下部においては知の分断が起きていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

原子力災害においてはグローバルなシステムの上部では情報が共有されていたが、下部へ向かうほどに情報は分断されており、補償の面においても、システムの周縁と階層の下部へ向かうほどに、被曝による被害に補償が出ていない。周縁におけるこのような見過ごされた被曝の問題を克服するためには、環境の知の獲得とその共有が必要であることが判明した。中央集権的でトップダウンの知識の伝達は、秘密の多い原子力産業にあっては、労働者や施設の周辺の住民の被曝が光が当てられないという問題と関係が深かった。申請者は福島の浜通りで月二回発行される『日々の新聞』にこの問題を連載して知識の共有を図っている。連載は50回を超えた。

研究成果の概要（英文）：I have started a fieldwork on what people know about the nuclear power plant accident in Fukushima without reducing it to certain sociological ideas, but tried to follow the actors as far as possible. The used fuels from Fukushima were sent to processing plants in La Hague (France) and Sellafield (UK). At the higher levels of the system, knowledge, personnels, processed materials, machines, and ideas circulated and were partially shared. But the circulation was cut-off at the marginal and lower levels. The more you go up higher the ladder, you would find more interchanges and sharing of know-hows, technologies, and finances. But more you go down and out to the marginal areas, you would find more vulnerable people who were not indemnified by exposures. Beside publishing a book and three articles, I have published my findings twice a month in specialized local journal in Fukushima to share my findings.

研究分野：人類学

キーワード：原子力 環境の知 人類学 知の共有

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は2011年4月から三陸において津波と身体化した環境の知の関係について研究し、2013年9月から福島において放射能に関わる環境の知について調査していた。海や浜で生活する人々に関しては、津波の経験は、環境(海上の船の上や浜)の中で活動する/運動する身体によって、身体知となっていた場合、津波の高さを実際よりも低く想定していた防災無線や、津波を想定して策定した防災マニュアルよりも人命を救うことに役立った事例が数多くあった。津波が環境の中で記憶され知覚され避難行動に移すことができたのに比べて、原発事故の場合は、行政の防災のシステムも、住民たちの環境の知も、原子力災害の事実について知り、その知に基づいて避難することには、役に立たなかった。事業者も行政もこの事故が想定外だったと証言している事実は、原子力施設がある環境が、周囲に住む人々たちにとって環境世界であり生活世界であること、そしてそのことが人々にとって何を意味し、そのことが何を帰結しうるかについて、知識が欠落していたことを指標していた。

何は問題なのか。研究代表者の身近に起きたことから説明を試みよう。散歩をしていた時、私は黒い煙が上がるのを見た。その煙は野焼きには黒く太かったが、まさか火事ではないだろうと思ひ込み、野焼きは禁止なのにこの辺りで野焼きをしていることが多い...などと考えながら歩き去ると、しばらくしてサイレンの音が遠くから聞こえてきた。それから消防車が姿を表すまでにさらに時間が経過した。サイレンの音を聞いて家から出てくる住民が多かった。身の回りでは何が起きているのかより早く知り、より早く手段を講じることが命を救う。2017年6月14日にロンドンのグレンフェルタワーで起きた火災で72名が無くなった。二つだけ問題をあげる。この建物は燃えやすい外装材が使われていた。火事起きた時に住民から消防署に999の電話があったが、室内で待つようにと指示を出した。これらは構造的な問題と災害の知に関する問題に関わっている。燃えやすい外装材に何が起こりうるのか知っていたならば、様々な対策が講じられる可能性があったと考えられる。また避難に関して、住民が自分で状況を判断できたならば、例えそれが指示系統の指示に従わないことになったとしても、より多くの命を救うことができただろう。(これは大川小学校の悲劇にも当てはまる。)防災マニュアルには想定外がある。このような災害は、初期の段階における判断が生死を分ける。原子力施設を含む災害が起きる可能性のある環境について、想定外の判断をする事業者や行政に頼り切るのではなく、周囲に住む人々自身自分たちの環境について知ることは、自分たち自身の命を守ることに直接的に関わる。

福島第一原発の事故に関しては、汚染水、除染、放射性廃棄物の保管、廃炉、などの問題は収束しておらず、現在も進行している。政治においてはこれは収束したかのようなことが言われていたが、周囲に住む人々たちにとっては、これは過去および現在と未来の外部被曝と内部被曝とその影響に関わる問題である。よって研究代表者は、原子力施設の周囲に住む人々たちが環境の中に放出された放射能について何を知っているか、事業者は何をどのように知り、何をどのタイミングで公表し、何を公表しないのか、あるいは隠しているのか。行政は何をどのように知り、何をどのタイミングで公表し、何を公表しないのか、あるいは隠しているのか。そのような問題について調査を始めていた。

## 2. 研究の目的

福島第一原発の事故についての情報には、公開されたものだけでなく、非公開のもの、不正確なもの、操作されたものなどがあり、そのために避難が遅れて被曝を続けたケースが数多くあった。また原子力推進派と反対派では、判断基準が異なるために、それぞれの判断の諸前提を可能な限り明らかにする必要があった。そこで研究代表者は、原子力施設の周囲に住む人々は、原子力災害について何を知っているのか、それをどのようにして知ったのか、時間の経過とともにそれはどのように学習され(あるいは忘却され)変容するのか、という問題について原子力施設の周りの生活世界において調査することにした。また、地域の原子力施設は、地域を超えてグローバルなシステムの一部であり、多様な知識と技術者とモノから作られ、これが部分的に繋がり、部分的に共有されているから、これらの原子力施設がどのようにグローバルに繋がっているのか、それらはどのような中間項によって媒介されているのか、人と知識とモノがどのように作られ共有され、あるいは共有されていないのかを調査することにした。

## 3. 研究の方法

福島第一原発は海外の原子力施設や原子力企業と密接な関係があることから、日本の原発から出た使用済み燃料からプルトニウムが取り出されて MOX 燃料が送り返されてくる(人的、技術的、物的、資金的な交流のある)フランスのラ・アーグの再処理工場、英国のセラフィールドの再処理工場とそれぞれの工場の関係者、周囲に住む人々、それぞれの再処理工場を研究対象とした研究者たちについて、扱う放射性物質の問題、環境への漏出/放出、小児白血病に関する様々な調査結果や意見に関する調査を行い、また福島県の浜通りのいわき市、楢葉町、富岡町においても同様の参与観察をおこなった。

福島第一原発の事故において何が起こっていたのか。研究代表者は、浜通りに通いながら、時には長く滞在しながら、福島第一原発で働いた協力会社や下請けで働いた人々、漁師や加工業者、農家、役場職員、避難した人々から話を聞いた。一度だけでは深い話ができないので、同じ人に複数回話を聞くようにした。また複数のインフォーマントたちには複数年にわたって話を聞き状況の変化、意見／認識の変化を理解するように努めた。

フランスでは、ノルマンディのカーンにある物理学者らが運営する NGO である ACRO のラボを拠点に、放射能汚染の調査に同行し、またラボにおいて論文の翻訳を手伝いながら、事業者から公表される放射能汚染の報告とは異なる結果が出ている試料のサンプリングから分析までのプロセスを参与観察した。また再処理工場のあるコタンタン半島のラ・アーグでは、地元に住む人々を数年にわたって訪ね、再処理工場に勤務する人とその家族、再処理工場による放射能汚染に反対する人とその家族ら、双方から複数年にわたって話を聞き、可能な場合は行動を共にした。また文献資料と映像資料を収集した。

英国では、カンブリア地方の複合的な原子力施設で再処理工場が二つあったセラフィールドの 3 キロ南のシースケールという村に滞在して、再処理工場に働いていた人およびその家族、現在働いている人、近くで牧場を営む人などから話を聞くと共に、文献資料や映像資料を収集した。

アメリカでは、ニューメキシコのインディアン保留地を中心に、ナヴァホインディアンのインフォーマントに案内してもらい、ウラン採掘後の尾鉱をためていたダムが決壊して放射能汚染が起こったウラン鉱山跡を訪ねてそこに住む元ウラン鉱山労働者らに話を聞くと共に、核廃棄物が捨てられた地域の近くに住むプエブロインディアンに話を聞いた。また核兵器から出たプルトニウムに汚染した廃棄物を貯蔵する地層処分場を訪れ職員に話を聞き、研究者たちからも話を聞いた。これはガボンのウラン鉱山跡で行う調査の準備となった。

ガボンでは、フランス政府が主導して採掘していたウラン鉱山跡で、閉山後にウラン鉱山跡に住む人々の日常ではどのような問題があるのかを参与観察を行った。

#### 4. 研究成果

調査の結果は、原子力施設の中心的な事業者に関しては、少数の同じアクターがグローバルに活動しており、広義の原子力の知はかなりの程度共有化が進んでいることが明らかになった。一方、原子力施設の周囲の住民たちが原子力施設について環境に放出された放射能について知っていることは限定的であり、知識が共有されていないことが明らかになった。

福島の浜通り、フランスのラ・アーグ、英国のセラフィールド、アメリカのニューメキシコのナヴァホインディアン保留地、ガボンのムナナにあるウラン鉱山跡に共通する問題は、原子力施設を運営する／していた事業者側は、国家と直接の結びつきが例外的に強力であること、周辺に住む人々あるいは組織の底辺で働いた人々（ウラン鉱山の労働者や原子力施設の労働者）と組織の上層の人々の間の、生活スタイルから被曝に至るまでのギャップが極めて大きいことは共通していると言える。またグローバルな原子力企業は、数少ない同じアクターがグローバルに活動していて、人的、技術的、資金的な相互の関係は深く、他方、底辺の人たちは相互に分断されていて、知識と経験は類似していたにも関わらず、交流はなかった。底辺の労働者や周辺の住民は、被曝の補償を受けられないことが多く見られた。原子力産業は強力なロビー活動を行っていて、原子力災害の事実に関する真理は開示されない仕組みが作られていた。数少ないそれが開示されるきっかけを作ったのは、プロの研究者や弁護士が中心的な働きをする NGO による調査だった。原子力災害の知は、事業者や研究者、あるいは NGO に集中しており、放射能で汚染した環境した周縁の環境に住む多くの人々とは、この知は共有されていなかった。様々な理由により、放射能に関する知は共有されず秘密にされることも多いため、放射能で汚染した地域に住む人々が身を守るためには、人々自身による環境の知の獲得が重要な課題であることが判明した。

研究の途中経過は福島県いわき市の原子力事故の報道には定評のある『日々の新聞』（月 2 回）に 3000 字程度の記事を期間中に 44 回連載した（現在も 50 回まで連載中）。そのほか論文 3 本と単著 1 冊を書き、学会発表は 9 回であった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 内山田康	4. 巻 48
2. 論文標題 ウラン鉱山と二つの生活世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 539
2. 論文標題 核燃料—ある芳しくないフランスの現状	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 原子力資料情報通信	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 387
2. 論文標題 戸惑いと嘘（28）放射能は関係ない 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 389
2. 論文標題 戸惑いと嘘（29）主権の影 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 390
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (30) 主権の影 2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ACRO/ 内山田康	4. 巻 539
2. 論文標題 核燃料ーある芳しくないフランスの現状	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 原子力資料情報通信	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 内山田康	4. 巻 391
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (31) 主権の影 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 392
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (32) 幕間「ボールの人生」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 399
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (33) 熱帯雨林の中のウラン鉱山跡へ 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 400
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (34) 熱帯雨林の中のウラン鉱山跡へ 2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 401
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (35) 熱帯雨林の中のウラン鉱山跡へ 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 402
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (36) 熱帯雨林の中のウラン鉱山跡へ 4	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 403
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (37) 熱帯雨林の中のウラン鉱山跡へ 5	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 404
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (38) ゴーストタウン 1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 405
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (39) ゴーストタウン 2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 48
2. 論文標題 ウラン鉱山と二つの生活世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 406
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (40) ゴースタウン 3	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 407
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (41) ゴースタウン 4	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 408
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (42) ゴースタウン 5	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 409
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (43) 再びムナナヘ 1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 内山田康	4. 巻 410
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (44) 再びムナナヘ 2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 363
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (3) 舞台の上の涙 2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 364
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (4) 舞台の上の涙 3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 365
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (5) コタンタン半島のシュールな自然 1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 366
2. 論文標題 戸惑いと嘘(6)コタンタン半島のシュールな自然 2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 367
2. 論文標題 戸惑いと嘘(7)コタンタン半島のシュールな自然 3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 368
2. 論文標題 戸惑いと嘘(8)曖昧にしたまま進む 1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 369
2. 論文標題 戸惑いと嘘(9)曖昧にしたまま進む 2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 370
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (10) 曖昧にしたまま進む 3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 371
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (11) 曖昧にしたまま進む 4	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 372
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (12) 幕間「私は私に追いつかない」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 373
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (13) 境界の浸透性 1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 374
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (14) 境界の浸透性 2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 375
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (15) 境界の浸透性 3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 376
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (16) 海辺を歩く 1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 377
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (17) 海辺を歩く 2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 378
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (18) 海辺を歩く 3	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 379
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (19) ホロピオントの海 1	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 380
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (20) ホロピオントの海 2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 381
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (21) ホロピオントの海 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 382
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (22) 幕間「時間と真実」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 383
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (23) 放射能汚染と解体された家 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 384
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (24) 放射能汚染と解体された家 2	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 385
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (25) 放射能汚染と解体された家 3	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 386
2. 論文標題 戸惑いと嘘 (26) 放射能汚染は関係ない 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日々の新聞	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山田康	4. 巻 46
2. 論文標題 戸惑いと嘘ー福島第一原発とラ・アーク再処理工場の近くで真実について考えるー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 71-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計9件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 内山田康
2. 発表標題 再処理工場と原発のある海辺の生活と人類学の方法 : ラ・アーク、セラフィールド、富岡で考える
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Uchiyamada
2. 発表標題 The Nuclear machine and perception of the world
3. 学会等名 Nuclear Issues Study Group Seminar (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Uchiyamada
2. 発表標題 Nuclear accidents, temporalities and lifeworlds Fukushima, La Hague, Sellafield and beyond
3. 学会等名 Symposium on Impact of Hazard/Natural disaster on Society in Asia: UMS-TUFS Exchange Lecture Series (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内山田康
2. 発表標題 原子力の人類学：原子力マシンの長い配置とそれと交叉するエージェントたちを追いかけながら自分たちについて知る
3. 学会等名 南アジア・インド洋世界研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内山田康
2. 発表標題 原子力マシーンとオリンピックの異なる場所性と時間性
3. 学会等名 第7回奈良女子大学オリンピック公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内山田康
2. 発表標題 原子力マシーン
3. 学会等名 「わざ」の人類学的研究－技術、身体、環境（招待講演）
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 Yasushi Uchiyamada
2. 発表標題 Why live with Nuclear Wastes? La Hague, Sellafield and Fukushima
3. 学会等名 Symposium in Applied Humanities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi Uchiyamada
2. 発表標題 Umwelt / Life-world after the nuclear accident in Fukushima and beyond
3. 学会等名 The Asian Studies Seminar at Addis Ababa University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内山田康
2. 発表標題 パノプティコンとインフラストラクチャーを巡って
3. 学会等名 筑波人類学ワークショップ004
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 内山田康	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 240
3. 書名 原子力人類学：フクシマ、ラ・アーク、セラフィールド	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----